

スリナム月間情勢報告
(2024年5月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

5月のスリナムの内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

1 内政

●(6日報道) 国際ジャーナリスト団体の「国境なき記者団」は世界各国の報道自由度ランキングを発表し、スリナムは昨年の48位から順位を上げ28位となった。

2 経済

●(2日報道) スリナムとイスラム開発銀行は、同国の経済開発を目的とする国別戦略2024～2026に合意。同戦略に基づき、イスラム開発銀行はスリナムにおけるエネルギーや保健、教育、廃棄物処理、民間セクター開発等の分野に2.35億米ドルを投資予定。

●(8日報道) 国家開発銀行(NOB)は、米州開発銀行(IDB)からの1,000万米ドルの融資により、持続可能性を目指す零細・中小企業家向けの融資・保証プログラムを開始すると発表。

●(8日報道) 国営石油公社(Staatsolie)は、2023年の決算報告書を株主に提出。収入は、平均原油価格の低下により前年比1.18億米ドル減の7.22億米ドルとなり、うち3.35億米ドルを国庫に納入。

3 外交

●(17日報道) ヒル・ジャマイカ産業・投資・商業大臣はスリナムを訪問し、サントキ大統領を表敬訪問。両者は貿易や産業、投資等の分野における二国間関係の強化や協力に向け協議を実施。

●(28日報道) 10月にコロンビアのカリで開催予定の生物多様性条約第16回締約国会議(COP16)に向け、第4回実施補助機関会合(SBI4)がケニアのナイロビで実施され、スリナム政府は、昆明・モントリオール世界生物多様性枠組に基づき新たに作成された生物多様性国家戦略および行動計画(NBSAP)2024～2023を発表。

●(29日報道) スリナムとマーシャル諸島が外交関係を樹立。